

ラビサン<sup>®</sup>スプレー

性状

淡黄色澄明可乳化油状液体  
〔粘度(cSt,40℃)10以上15未満、  
非硫酸化度(v/v%)92以上、蒸留性状(℃、760mmHg)、  
50%留出温度350以上390未満、  
10～90%留出温度幅56以下〕

有効期限

5年

毒性

普通物(毒劇物に該当しないものを指していう通称)

包装

20ℓポリパール缶×1

有効成分 マシン油 98.0%

種類名 マシン油乳剤

危険物 第四類第三石油類 危険等級Ⅲ マシン油 火気厳禁

## ■特長

1. 冬期はもちろん夏期にも使用できる98%の高度精製マシン油乳剤です。
2. ハダニ類およびカイガラムシ類に優れた効果があり、みかんに対する油浸、糖・酸に対する悪影響も少ないマシン油乳剤です。
3. 展着剤として使用した場合には主剤の防除効果を増大させます。
4. 天敵に対する悪影響が少なく、薬剤抵抗性の心配がありません。



製品ページはこちら

## ■適用害虫名及び使用方法

## 1. 害虫防除剤として使用する場合

(2026年6月10日現在)

作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)	使用液量(L/10a)	使用時期	本剤及びマシン油を含む使用回数	使用方法			
かんきつ	カイガラムシ類	100～200	200～700	夏期(6～7月中旬)	-	散布			
		70		冬期(12～3月)					
	ミカンハダニ	100～200		春～夏期(4～7月中旬)					
		70		冬期(12～3月)					
なし	ハダニ類	50		200～700			発芽前	-	散布
	カイガラムシ類								
	ニセナシサビダニ								
りんご	カイガラムシ類	50		200～700			芽出し直前、直後	-	散布
	ハダニ類	40～60							
		100							
		200							
小粒核果類	カイガラムシ類	25～50	200～700	発芽前	-	散布			
もも									
ネクタリン									
おうとう									
ブルーベリー							30		

作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)	使用液量(L/10a)	使用時期	本剤及びマシン油を含む使用回数	使用方法		
かき	カイガラムシ類	50	200~700	発芽前	-	散布		
		200		展葉期 (発芽後3週間まで)				
くり		50		発芽前				
きゅうり	ハダニ類	100~150	100~300	-			-	散布
すいか								
なす								
いちご								
茶	クワシロカイガラムシ	70~100	1,000	10~3月	-	散布		
	ハダニ類		200~400					
	チャトゲコナジラミ	75~100						
	クワシロカイガラムシ	100~150	1,000	5~9月				
	ハダニ類		200~400					
	チャトゲコナジラミ							
樹木類	カイガラムシ類	100~200	200~700	夏期				

## 2. 展着剤として使用する場合

適用農薬名	適用作物名	散布液10L当り 使用量(mL)	使用方法
チオファネートメチル剤 マンネブ・チオファネートメチル剤	かんきつ	20~25	添加
チオファネートメチル剤	りんご、なし、もも		

### 効果・薬害などの注意

1. 散布液は調製後なるべく早く、使用してください。
2. 本剤を展着剤として使用する場合は、混用しようとする薬剤をまず溶かしてから、本剤を添加してください。
3. 石灰硫黄合剤、ボルドー液などのアルカリ性剤、水和硫黄剤、ジチアノン剤との混用及び近接散布はさけてください。また、ジメトエート剤はヤノネカイガラムシ第1世代防除期には樹勢により落葉を助長することがあるので、この時期の混用はさけてください。
4. 夏期高温時の散布は薬害を生じやすいので散布は日中をさけ、朝夕の涼しい時に所定範囲の低濃度で行ってください。
5. 散布直後の降雨は効果を低下させるおそれがあるので、特に冬期散布においては、降雨が予想される場合は使用をさけてください。
6. かんきつに使用する場合、散布後、葉(特に旧葉)に油浸斑を生じることがありますが、日数の経過に従って消失し、落葉を助長することはありません。但し、かんばつ等で樹勢が弱っている場合には散布しないでください。
7. りんごの芽出し直後の場合は、時期がおくれると薬害を生じるおそれがあるので時期を失しないように注意してください。
8. 本剤を茶に使用する場合は、摘採前4週間は使用しないでください。
9. 茶の5月~9月の使用は、摘採直後の幼虫発生期に散布してください。
10. クワシロカイガラムシ対象の場合は散布量を十分に、株元に十分にかかるように散布してください。

11. 果菜類に使用する場合は下記の事項を守ってください。

- (1) 幼苗期の散布は薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。また連続散布する場合の散布間隔は7日以上あけるとともに、過度の連用はさけてください。
- (2) 収穫間近に散布すると果実にオイル光を生じるおそれがあるので、留意してください。
- (3) ハダニ類に対しては速効性が不十分であり、また1回散布では効果不十分であるので、なるべく発生初期に7～10日間隔でくり返し散布してください。

12. いちごに使用する場合、他剤との混用及び近接散布は、薬害の生じやすくなるおそれがあるのでさけてください。

13. 本剤は自動車などの塗装面に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないよう注意してください。

14. 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意してください。特に適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

## 安全使用上の注意

15. 危険物第四類第3石油類に属するので下記に十分注意してください。

16. 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜などに被害を及ぼさないよう注意を払ってください。

### ● 水産動植物への影響

水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

### ● 保管上の注意

密栓し、火気や直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。

---

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には、使用しないでください。

●小児の手の届く所には、置かないでください。●空容器・空袋はほ場などに放置せず、適切に処理してください。

---